∞ iTec

Press Release

2001年2月10日

報道関係者各位

株式会社インフィニット・テクノロジーズ

液晶ディスプレイ関連部材の市場規模を発表
『LCD部材・需給年鑑2001』を発刊

電子デバイス等のマーケットリサーチ・コンサルティング専門会社 **iTec**（正式名称：**インフィニット・テクノロジーズ** 所在地：東京都世田谷区、Tel代表：03-3702-0526）は、2001年2月10日に、液晶ディスプレイの需給・部材動向をまとめた**『LCD部材・需給年鑑2001』**を発刊した。

このレポートは2000年8月に発刊された**『FPD/LCD市場戦略年鑑2000-01』**を相互補完しあうもので、LCD部材28品目の2005年までの市場予測・部材メーカーの競争力分析を行った他、主要部材の需給や市場構造がTFTの需給・コスト構造に与える影響までをも総括的に分析している。前書『FPD/LCD市場戦略年鑑2000-01』では、2005年までのフラットパネルディスプレイのアプリケーション別ディスプレイの競合・インチサイズ動向・カラー化動向、およびLCDメーカーの収益動向分析を行ったが、この２冊をセットにすると、ディスプレイ産業の将来像の全貌を把握可能である。

両レポートとも、ディスプレイメーカー・部材メーカー等の必携書であり、日本国内で限定100部発刊されるほか、**ai-comm**（シンガポール）を通じて英語版も全世界に供給される。

■発表内容

詳細は、添付資料をご覧下さい。

１． 部材産業の位置付け

・28部材計で、2000年は7,700億円の市場規模で、**2005年には約１兆円産業にまで成長**する。
・総部材マーケットは、2000年ではLCD産業の約40%の規模、**2005年は30%**になる。
・**平均単価は年平均10%下落**。LCDメーカーの部材費削減や部材産業の業態から、LCDより大きい下落率。

２． TFT市場の成長を狂わす要因＝部材のボトルネック

・2001年1Qでは緩和されていた主要部材の**需給は、2Q以降反転、ほぼ逼迫気味に推移**する。
・とくにガラス基板、ドライバーICは、2005年でTFT供給量の**約10%のボトルネック**となる可能性があり。

３． 各種部材の市場形態から見た部材価格

・価格の**下がり難い部材**：プリズムシート、ITOターゲット、CFオーバーコート、ラビング布、シール剤

∞ Infinite Technologies, 2001

すなわち独占市場か、寡占市場＋上位１社の RMS が 1.5 以上のマーケット

・価格の**下がり易い部材**：CF、BL、液晶、レジスト、偏光板、他
メーカーで内製可能、海外生産、寡占市場＋上位１社の RMS が 1.5 未満のマーケット

・**競争力**の大きいメーカー：Corning、凸版、日東電工、3M、J-Energy、積水、日産化学、スタンレー、等

４． TFT の原価予測からみた価格引き下げ要求のありかた

・日本 TFT メーカーの利益確保のためには、**部材コストは 2005 年に 30%**まで下がる必要がある。

・それ以外のコストは償却コストなど、下げづらい。

■（株）インフィニット・テクノロジーズ 概要

インフィニット・テクノロジーズは、電子デバイス・電子材料・IT 等のマーケティング・コンサルティング専門機関で、1999 年に設立されました。まだ新しい会社ですが、ユニークな市場分析手法とデータベースで、ディスプレイ関連でも日本のみならず、米国、韓国などの企業からも注目を集めています。

とくに2000 年8 月に発刊された**『FPD/LCD 市場戦略年鑑 2000-01』**では、データ・予測のユニークさから、殆ど全ての LCD メーカー、部材メーカーから好評を博しております。今回の新レポート発刊によって、弊社のデータは、デファクトスタンダードに位置付けられるものと確信する次第です。

■お問合せ先

（株）インフィニット・テクノロジーズ

代表取締役　　大垣　城治

Tel：03-3702-0526　　Fax：03-3702-0515

E-Mail：george@infinite-tec.com

∞ Infinite Technologies, 2001

∞ iTec

添付資料

大好評の『LCD/FPD 市場戦略年鑑 2000-01』の部材・需給編、待望の完成‼　最後までお読み下さい‼

Advanced Market Report

LCD 部材・需給年鑑　2001　のご案内

●本レポートのこれまでにない特徴

1．FPD 中小型や LCD 業界の収益動向までをも詳細にまとめ大好評を博した『LCD / FPD 市場戦略年鑑 2000-01』の**補完版**として位置付けられる。分析には、**マーケティング手法を駆使**した。
2．TFT 需給動向と供給上の**ボトルネックとなる部材動向を予測**する。
3．各種部材の**市場構造・寡占度を分析**して、LCD メーカーには**生産計画・価格戦略上の問題点**、部材メーカーには**参入各社の競争力を提示**する。

●本レポートのコンテンツと内容・サマリー

Executive Summary

Ⅰ．LCD 市場拡大のボトルネック分析と部材市場構造の総括

１．部材産業の位置付け

・28 部材計で、2000 年は 7,700 億円の市場規模で、**2005 年には約 1 兆円産業にまで成長**する。
・総部材マーケットは、2000 年では LCD 産業の約 40%の規模、**2005 年は 30%**になる。
・**平均単価は年平均 10%下落**。LCD メーカーの部材費削減や部材産業の業態から、LCD より大きい下落率。

２．TFT 市場の成長を狂わす要因＝部材のボトルネック分析

・主要部材の**需給は、ほぼ逼迫気味に推移**する。
・とくにガラス基板、ドライバーIC は、2005 年で TFT 供給量の**約 10%のボトルネック**となる可能性があり。

３．各種部材の市場形態から見た部材価格の予測

・価格の**下がり難い部材**：プリズムシート、ITO ターゲット、CF オーバーコート、ラビング布、シール剤
　すなわち独占市場か、寡占市場＋上位１社の RMS が 1.5 以上のマーケット
・価格の**下がり易い部材**：CF、BL、液晶、レジスト、偏光板、他
　メーカーで内製可能、海外生産、寡占市場＋＋上位１社の RMS が 1.5 未満のマーケット
・**競争力**の大きいメーカー：Corning、凸版、日東電工、3M、J-Energy、積水、日産化学、スタンレー、等

４．TFT の原価予測からみた価格引き下げ要求

・日本 TFT メーカーの利益確保のためには、**部材コストは 2005 年に 30%**まで下がる必要がある。
・それ以外のコストは償却コストなど、下げづらい。

Ⅱ．TFT 需給予測

１．TFT 生産能力推移

２．需給バランスのシミュレーション

・2001 年 1Q は TFT 需給は緩和されているが、今後、**年率 20-25%での設備増強**が必要となってくる。

III. 主要 LCD 部材の需給バランス予測

1．ガラス基板の需給バランス
2．カラーフィルターの需給バランス
3．ドライバーIC の需給バランス
4．偏光フィルムの需給バランス
5．バックライトの需給バランス

・現状ガラス基板、ドライバーの需給は緩和されつつあるが、長期的には**需給ギャップは小さめ**に推移。

IV. LCD 部材市場予測

(1) 市場規模と予測（1998-2005）、(2) 用途・技術動向、(3) 価格動向、(4) メーカー動向と納入動向、
(5) 市場形態・競争力分析（寡占度・RMS 分析）、(6) メーカー内製化動向、など

1．ガラス基板：市場増加に伴い、将来的には逼迫。青板は寡占市場、白板は数量効果で価格下落傾向。
2．成膜基板：TFT 用はパネルメーカー内製、BM は脱クロムの動きがあり、市場は減少。
3．プラスチック LCD 基板：まだ 10 億円未満のマーケット。セルラー頼み。
4．アルカリ封止膜：STN, TN 市場成熟により、大きな市場増はない。
5．ITO ターゲット材：寡占市場＋レアメタル・インジウムの入手難で、価格下落がおき難い。
6．電極保護コート剤：STN が小型品中心になってきたため、市場は漸減傾向。寡占市場。
7．カラーフィルター：台湾でも能力増強。STN 用は不足。凸版の競争力は大きいが、市況はダウン。
8．カラーフィルター用顔料分散型レジスト：安定成長になる。
9．カラーフィルター用顔料：Ciba が高い競争力をもち、価格下落がおこりにくい。
10．クロムターゲット：環境問題より樹脂 BM へ逐次代替か。東ソーがきわめて強い。
11．カラーフィルターオーバーコート剤：スリット＆スピン法採用で、目付減少。独占的市場。
12．液晶用フォトレジスト：ネガ型が復権か。完全競争型市場形態である。
13．配向処理膜：日産化学の RMS が 1.5。3 社寡占に近い市場形態。
14．スペーサー：積水ファインケミカルの競争力が特筆される。
15．ラビング布：ラビング工程はもっとも不安があるプロセス。ラビングフリー製法のブレークスルーあるか。
16．シール剤（基板接着剤）：UV 硬化型と熱硬化型が共存。三井化学強し。
17．液晶封止剤：日本ロックタイトが RMS1.7 を示す。
18．液晶材料（ミクスチャー）：VA, ISP の動き。寡占市場ながら、上位３社の競合が激化。
19．液晶用光学フィルム（偏光板/位相差板）：偏光フィルムで日東電工圧倒的。視野角補償フィルム拡大。
20．蛍光ランプ型バックライトユニット：スタンレー＋中小メーカー乱立状態。徹底したコスト管理が必要。
21．EL ランプ型バックライトユニット：セルラーのカラー化により、2001 年で市場は頭打ち。
22．導光板：パネルメーカーにも納入。導光板レス、プリズムシートレスなど様々な動きあり。
23．拡散シート：3 社寡占市場。価格下落がおこりにくい。
24．プリズムシート：住友スリーエム独占的市場。プリズムシートレス・1 枚化が活性化するか。
25．タッチパネル：PDA のみならず、大型パネルへの応用で大幅に市場は拡大。
26．異方性導電膜：2 社寡占市場。pSi･TFT の COG 実装にも使われ始め、大幅に市場拡大。
27．TCP（TAB フィルムキャリア）：上位 2 社の激しい競合の構図がみられる。
28．ドライバーIC：上位陣の大幅設備増強、台湾勢の新規参入、業界再編の動きを経て、供給体制整備される。

※**『LCD/FPD 市場戦略年鑑　2001-02』は、2001 年 8 月 1 日刊行**予定です。
また別途詳細はお送り申し上げますが、さらに競争力・収益動向の分析を強化いたします。

※**『カーディスプレイ市場の戦略的展望』**レポートも現在作成中です。**http://infinite-tec.com** へ！

---弊社は、FPD や LCD、部材についてのマーケットリサーチやコンサルテーションでも定評があります。また、昨年刊行した**『LCD/FPD 市場戦略年鑑　2000-01』**は日本のみならず、韓国・台湾・アメリカの関連メーカーの 90%以上で使われており、データはデファクトスタンダードとして御利用いただいております。

∞ Infinite Technologies, 2001

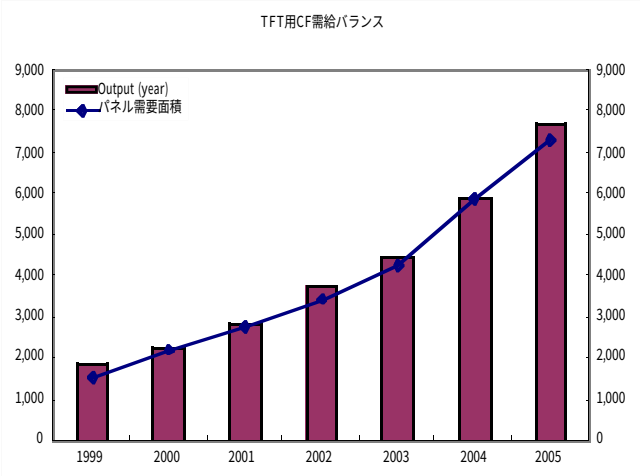
●発刊内容

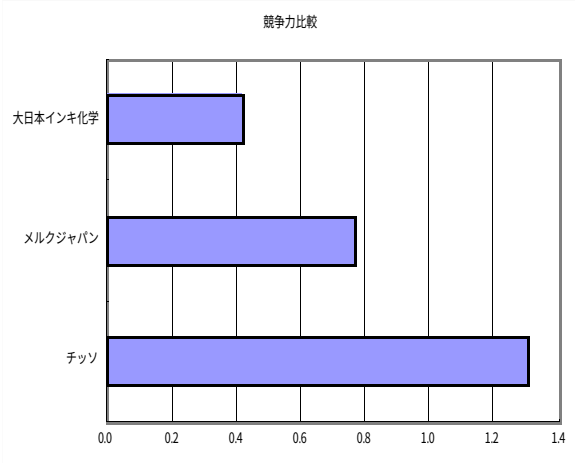
＜発刊日＞　2001 年 2 月 10 日
＜体　裁＞　基本的に **PDF ファイル版（CD-ROM）** のみでの供給となります。
　　ハードコピー版は 1 冊あたり別途 10,000 円を申し受けます。
＜価　格＞　**予約特価（2 月 20 日までの注文に限る）：100,000 円**（税別）
　　定価（2 月 20 日以降のご発注）：120,000 円（税別）
＜申　込＞　付属の注文書に必要事項をご記入のうえ E-mail または FAX でご送付下さい。お電話でも結構です。

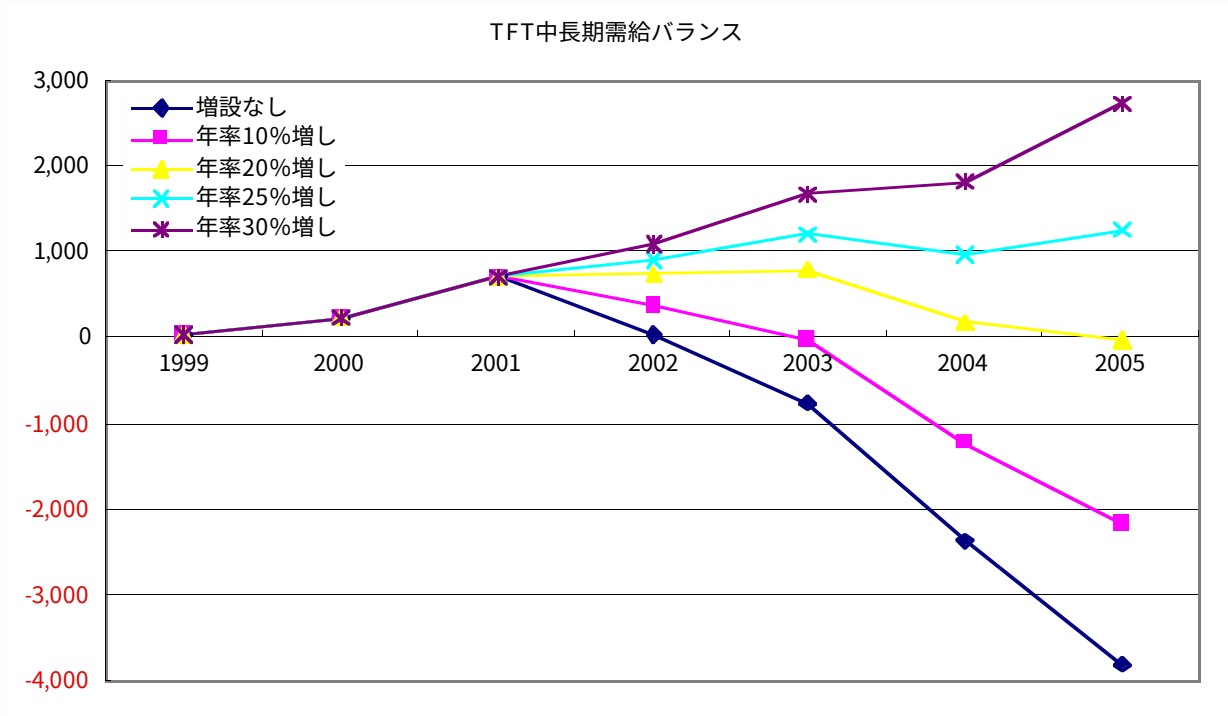
●内容見本

■部材市場構造と単価

部材名	市場構造的要因			メーカー内製	それ以外の要因	単価下落率
	独占度	3 社寡占度	首位 RMS			98-05CAGR
ガラス基板 (白板)	40.8%	80.3%	2.1		数量効果	-8.1%
成膜基板	37.3%	76.6%	1.7	○		
プラスチック基板	86.2%	100.0%	6.3			-1.7%
ITO ターゲット材	44.3%	90.3%	1.8		レアメタル	0.0%
電極保護コート剤	43.8%	93.8%	1.2			
カラーフィルター	44.9%	82.4%	2.0	○		-14.1%
CF 用顔料	61.1%	90%以上	2.0			-2.5%
Cr ターゲット	62.5%	90.6%	3.3		環境問題・代替品	-4.4%
CF オーバーコート剤	76.9%	90%以上	2.0 以上			-5.4%
液晶用フォトレジスト	39.4%	88.7%	1.1			-8.6%
配向処理膜	44.9%	89.8%	1.5			-5.2%
スペーサー	66.7%	75.0%	8.0			-4.5%







お申し込みまたは問合せ先

（株）インフィニット・テクノロジーズ　　大垣　城治

〒158-0083　東京都世田谷区奥沢 6-5-10-502　　**☎ 03-3702-0526　　FAX 03-3702-0515**

E-mail: george@infinite-tec.com　　会社概要は、**http://infinite-tec.com** へ！